

*Lopholejeunea densiloba* Horik. (Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. ser. 4, 4: 421, f. 13, 1929) seems to be close to, or probably conspecific with, this species.

I am much indebted to Prof. H. Ito (Tokyo Univ. of Education) and Mr. I. Nagano (Chichibu Mus. Nat. Hist.) for the study of these interesting materials. My sincere thanks are also due to Dr. S. Hattori (Hattori Bot. Lab.) for many criticisms for this article.

東京教育大学地質学教室の渡辺影隆教授が 1940 年 12 月から 1941 年 1 月にかけてパラオ島で採集された植物のうち、苔類標本を研究した結果である。27 種を同定できたが、大部分のものはカロリン群島に未記録であり、うち 2 種は新種と考えられる。

*Acromastigum palauense* は葉形、腹葉の形、更に verrucose した細胞膜の性質等によつて特徴づけられる。パラオ島の資料中には量的にも多いので、近接する地域にも分布している可能性は充分あると考えられる。*Bazzania watanabei* は Sect. *Appendiculatae* に属する大形な種類で、葉形、腹葉の性質等によつて近似種から区別される。

量的には *Mastigophora diclados* および *Radula javanica* がいちじるしく多い。共に熱帯地方の蘚苔林に広く分布しているものである。種としては *Lejeuneaceae* のものが目立つて多い (14 種) が、これは熱帯地方の一つの特性でもある。*Lejeuneaceae* の種では 2, 3 を除いてほとんどが分布が広いものである。

○高等植物分布資料 (12) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (12).

○チョウセンハリイ *Eleocharis leviseta* NAKAI チョウセンハリイは朝鮮と日本に分布するハリイ属の植物であるが、日本では本州(武蔵: 沓掛)に稀産するだけのものである(大井氏: 日本植物誌)。筆者は 1955 年沓掛島北部の勝本町新城でこれを採集した。自生地はシイを主とする浅い雑木林に沿う带状の湿地一帯である。ここは土地改良区に編入され、昨年から始められた工事のためその群生地の全部は今姿を消そうとしている。それで記録に留めておく必要を感じ、時機を失つたがここに発表した次第である。最後に採集当時親しく同定頂いた大井次三郎博士に対し深甚の謝意を表します。(品川鉄摩, 長崎県沓掛郡勝本町)

○ハンカイシオガマ *Pedicularis gloriosa* Bisset et Moore フォッサマグナ地域に分化発生したとみられる本種は西進して遠江北部まで知られているが〔原・金井: 日本種子植物分布図集 1, Map. 58 (1958)〕天竜川を西に越えて愛知県三河の東北園村に産する。この辺はイワシヤジン・マメザクラ・ノダケモドキなど東部に発生源をもつ種が同一分布している。(井波 一雄)